

## 目次

### 第1部 本書の利用方法

1. スパン表の種類	2
2. スパン表の適用範囲と使用上の留意点	
2.1 スパン表の適用範囲	3
2.2 スパン表使用上の留意点	
2.2.1 対象住宅の構法と規模	7
2.2.2 軸組の架構形式	7
2.2.3 基礎梁区画の形状	9
2.2.4 荷重	10
2.2.5 小屋組の架構形式	19
2.2.6 木質材料の力学特性	19

### 第2部 横架材スパン表

1. スパン表の種類	24
2. スパン表の参照手順	26
3. スパン表の適用条件	27
4. 主スパン表	
4.1 床梁の必要最小せい	28
4.2 跳出し梁の必要最小せい	174
4.3 小屋梁の必要最小せい	234
4.4 大引の可能最大スパン	305
4.5 根太の可能最大スパン	308
4.6 母屋・棟木の可能最大スパン	312
4.7 垂木の可能最大スパン	319
4.8 隅木の可能最大スパン	327
4.9 登り梁の可能最大スパン	334
4.10 登り梁にかかる母屋の可能最大スパン	341

### 第3部 基礎スパン表

1. 基礎スパン表の種類	350
2. 基礎スパン表の適用範囲	350
3. 基礎スパン表の参照方法	352
4. 基礎スパン表	
4.1 布基礎底盤の幅	353
4.2 基礎梁の長期荷重時の主筋量	360

4.3 基礎梁の短期水平荷重時の主筋量……………	371
4.4 べた基礎底盤の配筋……………	379

## 付録ディスク収録内容

- 第1部 本書の利用方法
- 第2部 横架材スパン表\*
- 第3部 基礎スパン表\*
- 第4部 モデルプランによる解説
- 第5部 横架材スパン表の作成条件
- 第6部 基礎スパン表の作成条件
- Zマーク表示金物 梁受け金物の使い方

\*紙面に掲載していない荷重条件及び樹種のスパン表を含む。

本書の内容は、本書発行時点での法令等に準じたものであり、予告なく正誤表などにより変更されることがある。

本書の内容は、細心の注意を払い作成しているが、いかなる保証をするものではない。設計、施工、工事監理等の業務へのご活用にあたっては、利用者自身の判断と責任において実施していただくものとする。

また、本書の利用に起因して発生する直接、間接、特別又は必然の損害について、発行者及び改訂編集委員会は何らの責任を負うことはない。

本書のご活用にあたっては、上記事項をあらかじめご了承ください。